

【課題1】

多様な性を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

①児童生徒・学校の実態

○全校生徒数 700名

- ・ 1学年 219名（7学級）
- ・ 2学年 252名（7学級）
- ・ 3学年 209名（6学級）
- ・ 特別支援学級 20名（3学級）

○本校の最大の特徴

- ・ 小学校と中学校の**建物がつながっている**こと。
⇒**小中一貫した子ども理解を進めやすい**。

※もう一校のパートナー校である北郷小とも連携しながら、3校で校区の子ども達の教育に取り組んでいる。

②ねらい(目標)

- ・ 学校全体（集団）の成長と、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを推進する。

③活動内容

1. 「北白石中学校PTA研修講演会」の開催（視点1・視点2）

- ・ 対象 本校の教職員及び**本校PTA**
パートナー校の教職員

（北白石小、北郷小）

本校校区内の小学校PTA



2. 北白石中学校区小中学校

「子ども理解研修会」の開催（視点1・視点2）

- ・ 対象 本校とパートナー校の教職員

3. 「生活安全教室」の開催（全学年対象）（視点3）

- ・ 対象 本校の全校生徒

【課題1】

多様な性を窓口人間尊重の意識を高める研究の推進

④成果

1. 「北白石中学校PTA研修講演会」

- ・LGBTQに関する理解が一層深まった。
- ・教員間、小・中学校間での性の指導に関する共通理解を図ることができた。
- ・LGBTQについて学ぶ意欲が高まり、さらに研修を深めようとする教職員もいた。

2. 小中学校「子ども理解研修会」

- ・特別な配慮を要する子どもに対する接し方や授業を行う際の具体的な手法について研修を深めることができた。

3. 「生活安全教室」

- ・性的マイノリティについて正しく理解を深め、多様性を尊重する態度や自他共に大切な存在であるという意識を高めることができた。

⑤課題と今後の取組の方向性

1. 教職員の研修の更なる充実

- ・様々な研修を通して、教職員の意識の向上を図るとともに、性教育に限らず、多様な児童生徒に接していくために必要なスキルや知識を学ぶことで、**子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりを更に進めていくことが必要である**と考える。

2. 「小中一貫した教育」を意識したパートナー校との更なる連携

- ・本校の強みである、パートナー校との連携をより一層強化できるよう、今後も様々な研修や情報交流を積極的に行っていきたい。



【課題1】

多様な性を窓口人間尊重の意識を高める研究の推進

⑥参考資料



「北白石中学校PTA研修講演会」

- ・日時 令和5年6月16日
- ・講師 日高 庸晴 氏
(宝塚大学 看護学部 教授)
- ・演題 「LGBTQの存在を意識した学校づくり」
- ・対象 本校の教職員及び本校PTA
パートナー校の教職員(北白石小、北郷小)
本校校区内の小学校PTA



北白石中学校区小中学校 「子ども理解研修会」

- ・日時 令和5年12月8日
- ・講師 前野 紀恵子 氏
(学校心理士・
教育臨床カウンセラー)
- ・演題 「新たな視点による
子ども理解と支援の実際」



「生活安全教室」

- ・日時 令和5年4月24日
- ・講師 札幌市市民文化局
男女共同参画室
男女共同参画課長
- ・演題 「みんながありのまま
自分らしく輝くために
～性的マイノリティ
と人権～」